



第200回例会 1963.5.28 (火) 晴

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

○ 出席報告

本日の出席	出席数 37名	欠席者	海東君、佐藤(伊)君、高橋君、鷺田君、岩網君、谷口君、手塚君、辻君、伊藤君
	出席率 81.25%		

前回の修正	前回出席率 83.33%	メンバー	金井(勝)君 (山形R.C.)
	修正出席数 41名	クラブ	大野君 (村山R.C.)
	修正出席率 89.58%	サブ	荘司君 (酒田R.C.)

○ 司 会 副会長 池 内 君

○ ソ ン グ 我等の生業 リーダー 広瀬君

○ ビジター

荒井清君 (酒田R.C.)
 遠田茂君 (ク ク)
 広田勇一君 (山形西R.C.)

○ 連絡事項

- 会長の御病気は日増しに快復に向っております。
- 5月26日(日) 酒、鶴岡合同家族会が開催されました。
- 6月9日は当クラブの創立記念日になっております

○ 各個ロータリアンの責任

各ロータリアンは、奉仕の第四部門固有の理想達成のため、その人の個人的寄与が期待されている。各ロータリアンは、自国の忠誠で且つ奉仕的な国民となるように、その日々の個人生活及び職業上の活動をなすことが期待されている。

個人として働いている各ロータリアンは何処におろうと、物の良く分つた輿論を起すよう助力しなければならない。斯様な輿論は、当然凡べての国の人々に対する国際上の理解と善意の進展に関する政府の政策に影響するであろう。これは単に国際奉仕の「施策概要の手解きに過ぎません。

然し、此の概要は明らかに、その人が何処に住んでおろうと、それには関係なく、個々のロータリアンに提示されたものであります。それから各ロータリアンがその指導力を發揮することのできる範囲の分析を追求するのであります。事実上、七つの道は広範囲のロータリアンの経験によつて推奨されました。自己批判の価値は、多くの研究心を持つ友好関係者によつて助長せられております。そこには何等完成のかこつけもありません。陳述書は独自の思考に挑跳躍板として考えられたものであります。

皆さんはこれらの道を皆さん自身のものとして選び、

且つ、その説明せられている奉仕の道程に従って行くことができるでしょうか。

斯様な個人的重要問題の決定は軽々しくは出来ませんでしょう。陳述書を通読する人によつて、或はうなづき或は又、或る牧師補が有名な卵の話でいつたように「部分的には良い」という具合に、多少は得るところがあります。虚心担懐によんでいただければ、此の陳述書はそれで良いのであります。

斯様な訳でありますから「各個ロータリアンの責任」に関する残りの記事は此処では述べないことにしますそのかわり、以下七つの章で各々その一部を取り上げることに致します。各章は適切な節を以つて初まり、七つの道の各々は、一般の状勢、問題及びその導かんとする奉仕の機会等に関連して、一つ一つ吟味されております。「衝撃」と題して最後の章で、各々の例に人類の平和への道標をつけ、ロータリーの衝撃例を記録しております。ロータリアン及びその他の人々でこれらの道に引きつけられる数が殖えるに従い、ロータリーの活力及び衝撃に大なる変化を齎らすことができるでしょう。

然しながら最も大切なことは、凡ての人類が何んとかして戦禍と文明の破壊を避ける可能性であります。若し国際奉仕の部門に欠点があるとすれば、その部門についての関心は必要でないときえロータリアンが思うのはこのためであります。

現在人類のジレンマは、コンチキ丸の乗組員が1947年8月7日に際会した時の状態と比較することができます。その日、西に向つての潮流に乗つて南米パルサ材の筏を運ぶ六人の乗組員が4,300マイルの太平洋を横切りつゝ、小さな筏は刻々と危険極まるラロイア礁に近づいて来たのであります。北風がちよつとの間筏を転換させましたが、珊瑚礁は矢張り待ち伏せておりました。それから、風は止み、そしてゆつくりではあるが容赦なく筏は珊瑚礁の壁に向つて流されました。海のリズムは逆まく怒濤と変り、珊瑚礁の高波は沸騰

し、のたうちまわり、危険はその最高潮に達しました打ち寄せる波は、初めは単純な低音であつたが、コンチキ丸が珊瑚礁に向つて引きずられる頃には、太鼓の連打のような猛烈なものとなりました。

高波の向うに、乗組員は静かな礁湖の後方に椰子の木のある島を見ることが出来ました。然し、そこでは筏が珊瑚礁に突進するに従つて、のどかな島に対する何等の思潮も浮べることが出来なかつたのであります。乗組員はその潮流に抗するには全く無力でありました筏が分解したならば、乗組員は間違いなく珊瑚で切り殺される運命にあるのです。筏が安全であれば、彼等は平和の礁湖に泳ぎついて命が助かるかも知れないのです。若し潮流が万一にも筏を珊瑚礁から離して呉れることがありとすれば、彼等は生きのびて彼等の経験談を語る事が出来るのであります。寓話は明瞭であります。人類は長い困難な道に文明を追いやりました処が突然水爆戦争によつてその全滅がおびやかされているということが発見されました。

戦争への流れは知らず知らずの間に起つておるということに間違いないようでありまして、それが本年か、来年か、10年後であるか、或は何時起るかは分りません。

珊瑚礁はごつごつしており、且つ恐ろしいものであります。そこにこれからでも発見できる良い道はないでしょうか。左様、そこに一つの方法があります。

本書は今迄かつて取り上げなかつた無数の人手を今は新しく確固たる道程に勢揃いするよう勧誘できることを、希望と信念を持つて提供しております。

(平和への七つの道)より抜萃

○ 幹事報告 なし

○ 本日の献立

刺身 鯛 焼物 新鱈
アスパラカス

味噌汁 豆腐 茗荷